

つづく、つづける。モアモデル・井桁弘恵と一緒に学ぶ

What's SDGs?

国連で採択された、2030年までに達成すべき17のゴールのことで、Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略。私たちが地球に住み続けるために、貧困、飢餓、環境、教育、ジェンダー平等などの問題を、世界が協力して解決することを目指す。



いげちゃんの ゴツゴツ

SDGs

世界各地で多発している人道的危機により、難民・避難民の数は、2022年に過去最多を記録。そこで今回は、SDGsが掲げる“誰一人取り残さない世界”の実現のためにできることを考えます。

撮影/野田孝葉 (TRON) ヘア&メイク/あきやま ひとみ
モデル/井桁弘恵 (モア原風) スタイリスト/社村真理 取材・文/海渡理恵

vol.
19

難民・避難民の現状と、

今すぐできる支援法



ウクライナ避難民の女性が働く
レストラン
スマチノーゴ



2022年9月にオープン。ウクライナ料理と日本料理を融合させた創作料理店。店名の「スマチノーゴ」は、「おいしく召し上がれ」を意味するウクライナ語。

ライナ料理店を開くことにしました。

井桁 どんな方が食べにこられることが多いですか？

TAKANE ウクライナのために何かしたいという方が多いですね。そういう方々のために、スタッフやウクライナ語、国の現状を紹介するボードを置いていて。

井桁 さっきこのボードを読んで、スタッフの方とお話しして、ウクライナに親しみが湧きました。TAKANEさんは、お店のゴールをどこだと考えていますか？

TAKANE 戦争が終わって、彼女たちが母国に帰れることです。それまではここを続けたいし、支えたいです。

井桁 最後に、読者にできる支援はなんだと思いますか？

TAKANE 支援の形は自由なので、コレという正解はないですね。私は支援の多様性が進むといいなと思っています。もちろんお金や物資の寄付もひとつの支援方法ですが、それ以外にもできることはたくさんある。自分にできることを考えて、行動を起こしてほしいです。

井桁 たしかに。私も自分なりの支援を模索します！

『スマチノーゴ』オーナーのTAKANEさんに聞いた

“食べる”ことでの 新しい支援の形



TAKANEさん

「スマチノーゴ」のオーナー。レストランの経営は今回が初めてで、企画の立ち上げからメニュー作成、現場指導などをひとりで行う

“お店のゴールは戦争が終わって、 従業員が国に帰れること”

井桁 レストランを開いたきっかけを教えてください。

TAKANE ウクライナ避難民のために自分にできることはないかと考えた時に、住居やお金の提供は、政府や財団がしている。そうなるに必要な支援は、仕事の提供だと思ったんです。それで、日本語が話せないことがあまり障害にならない、かつ人も交流できる。さらには、自国の料理が避難民のモチベーションになると思いウク

難民支援協会の鶴木さんに聞いた

そもそも難民・ 避難民って？



認定NPO法人
「難民支援協会 (JAR)」
定住支援部
鶴木由美子さん

日本に来た難民の定住支援や、居住する地域社会で心地よく暮らすためのコミュニティ支援を担当

「難民」とは、紛争や人権侵害などから自分の命を守るために故郷から逃げざるをえない人のこと。現在、ウクライナからの避難者を、諸外国は「難民」として受け入れていますが、日本政府は、あくまでも短期滞在者として受け入れているため「避難民」と呼んでいます (鶴木さん)



“ありがとう”は
ウクライナ語で“ジャクウ”